

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 月島第三小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none">●「令和6年度学習力サポートテスト」において、「文章を書く」設問において参加校より第6学年が7.4ポイント下回っている。「話し合いの内容を聞き取る」設問において第5・6学年が参加校より下回っている。・内容の中心を明確にし、自分の考えやその理由などを書くことが苦手な児童が多い。・大事なことを落とさず聞くことを苦手とする児童が多い。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none">●「令和7年度学習力サポートテスト」における第4学年で、「漢字を書く」の単元では3.7ポイント、第6学年では、「言葉の学習」の単元で6.3ポイント、参加校平均正答率を下回っている。●第5学年では、「記述」の正答率に課題があり、「文章を書く」単元では、相手や目的を意識し、伝えたいことを明確にして書く力が不足していると考えられる。
算数	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none">●「令和6年度学習力サポートテスト」において、4～6年生は、「数と計算」、「図形」領域では、概ね理解できている（7～8割程度）。5年生の「変化と活用」領域では6割程度、5、6年生の「データの活用」領域では、6割程度の正答率に留まり、理解の定着が図れていない。・どの学年においても、データの活用が苦手な児童が多い。・5年生では、「変わり方調べ」、6年生では、「割合」の単元の学習が定着していない。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none">●「令和7年度学習力サポートテスト」において、全体的に参加校平均正答率を上回っている。●しかし、第4学年の「かけ算」と第6学年の「面積」の内容別正答率は約6割で他の内容より低い。第4学年での小数点を使うかけ算につまづきが多く、第6学年での「円の面積」で半径×半径×3.14での計算のつまづきにつながると考えられる。
社会	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none">●「令和6年度学習力サポートテスト」における「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」の単元において、参加校平均正答率を第5学年で1.8ポイント下回っている。また、「国土の自然などの様子」の単元において、参加校平均正答率を第6学年で6.9ポイント下回っている。・地理的な知識を習得することに対する意欲や習得の個人差が大きい。・情報と情報を関連付けて文章等で表現するのが苦手な児童が多い。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none">●「令和7年度学習力サポートテスト」における第4学年で、「地域や市の様子」の単元では7.2ポイント、「市の様子の移り変わり」の単元では9.9ポイント、参加校平均正答率を下回っている。●「令和7年度学習力サポートテスト」における第6学年で、「工業生産」の単元で3.4ポイント、参加校平均正答率を下回っている。・第4学年では、「短答」の正答率に特に課題があり、必要な社会的な知識・語いの習得が不十分と考えられる。・第6学年では、「記述」の正答率に特に課題があり、情報と情報を関連付けて文章で表現する経験が不足していると考えられる。

理科	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「令和6年度学習力サポートテスト」においては、次のことに課題があることが分かった。4年生では磁石の性質についての理解が定着していない。5年生では、水の姿についての理解が定着していない。6年生では、天気の変化についての理解が定着していない。 ・学習してしばらく経った内容の定着率に課題がある。 ・考察などで自分の考えを表現するのが苦手な児童が多い。 <p>【10月】</p> <p>「令和7年度学習力サポートテスト」においては、次のことに課題があることが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生では、「身近な自然の観察」「植物の育ち方」「昆虫の育ち方」の単元で、目標値を大きく下回っている。自然のある場所が限られていることもあり、日常生活で動植物に触れ合う機会が少ないことや、授業の教材として取り入れることが難しいことも理由として考えられる。 ・6年生では、「振り子のきまり」の単元で、目標値と区平均正答率を大きく下回っている。特に、知識・技能に課題が見られ、実験を通して知識へと結び付けることが難しい児童が多い。
英語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「令和6年度学習力サポートテスト」において、「アルファベットを読み（聞く）」と「英文の完成」の問題において正答率の低さが目立った。この結果から、アルファベットや英文を正確に読むことに課題があると考えられる。 ・アルファベットの文字や英文を正確に読む能力が全体的に低い。 ・似た形のアルファベットの文字を書き間違えるなど書く能力における個人差が大きい。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「令和7年度学習力サポートテスト」において、目標値としては突破しているが、区の平均正答率から分析すると校内の平均正答率は低く、アルファベットや英文を正確に読むことについて依然課題が残る。 ・表現が複雑になったときに間違えて書くなど個人差が大きい。
体力向上	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身持久力、投力の面での改善が必要である。器具や用具を使う運動というよりも自分の体をうまく動かしたり操作したりという面に課題がある。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活では使わない運動（マットや跳び箱）の学習に対して苦手意識をもつ児童が多い。遊びや感覚づくりを通じて苦手意識を克服したい。

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く態度を重視し、大事なことを落とさずに聞く姿勢を身に付けさせる。 ・自分の考えを書く機会を設定する。 ・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) <p>【10月】</p> <p>行事や体験活動等、児童が書きたくなる機会をとらえ、文章を書かせたり、読み合いをしたりすることによって文章構成を考えたり、より詳しく書いたりする力が高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月三小スタンダード【授業】の聞き方を徹底する。 ・教師や友達の発表を聞くだけでなく、内容を要約したり思考ツールに整理したりする活動を重視する。 ・他教科で学んだ内容を説明文にして書く活動を行ったり、ICTを活用し、文章を推敲する経験を積ませたりする。

<p style="text-align: center;">算 数</p>	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの活用の学習では、統計的探求プロセスである「問題—計画—データ分析—結論（PPDA サイクル）を意識して取り組むようにする。 「割合」の学習では、簡単な例を出しながら、算数用語を確実に理解した上で、問題に取り組むようにする。 「変化と関係」「データの活用」の領域で、正答率7割以上を目指す。 学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算の場合、小数点の位置などつまづきやすいポイントを教師が把握し、練習問題で出題されたとき、教師が取り上げて解説する。 学年の実態に応じて習熟度ごとに分け、学習に取り残されない児童を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの中でデータが必要な問題場面と目的を見つけられるように促し、意欲的に取り組めるようにする。 算数用語を抑えた上で、どのような場面で必要なものなのかを指導する。
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理的な知識を多くの児童が意欲的に習得できるように、地理的な知識を授業中に工夫して扱う。 日頃の授業や単元のまとめなどで、情報と情報を関連付けて考えるような展開を、計画的に入れる。 「地域の特徴」「国土や地形」などの単元において、「令和6年度学習力サポートテスト」の第5学年・第6学年で、参加校平均正答率を上回るようにする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理的な知識を活用して、地図を読み取り、そこから地域ごとの特徴などを考えることができるようにする。 単元のまとめの文章表現を、キーワードや箇条書きなどではなく、文章で表現できるように指導する。さらに、児童が文章表現をしやすいように、黒板やミライタッチ等で、単元の学習内容を教師が整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央区の地図や地図帳、地図記号クイズなど、児童が地理的な内容に触れられるように授業計画を立てる。 単元の中で重要な言葉などを事前に教師が理解しておき、提示してまとめに入れさせる。さらに、まとめの授業の際にこれまでの情報を関連させるような発問をする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに児童が習得しなくてはならない社会的知識や語いを教師が整理しておき、授業中に意図的におさえる。 習得した社会的知識や語い、概念的知識等を関連付けて、単元のまとめを書いて表現する時間を計画的に設定し、文章でまとめる機会を増やして慣れさせる。
<p style="text-align: center;">理 科</p>	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に練習プリントを解くなど、以前に学習した内容を確実に習得することを図る。 考察の書き方の指導を改善し、日頃の授業で実践する。 学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験後の考察を丁寧に指導し、学習内容の理解を深める。 ピオトップ等を活用し、日常生活の題材を学習に活かして、自分事として学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ内容を復習できるプリントを用意し、定期的に復習する機会を設ける。 考察の書き方の型を示したり、よく書けている児童のノートを紹介したりして、具体的に考察の書き方が分かるように指導する。
<p style="text-align: center;">英 語</p>	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> アルファベットの読みの練習、フォニックスの学習、教科書の英文を読む練習の機会を増やす。 アルファベットの書く練習を充実させる。フォニックスの学習を通して、文字の音と形をリンクさせて覚えられるように継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「A says /æ/, /æ/, apple. B says /b/, /b/, ball.」のように、文字の名前、音、その音で始まる単語をセットで提示する。 大文字・小文字それぞれについて、正しい書き順を丁寧に指導します。視覚的な教材（書き順がアニメーションで表示される

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの文字に対する音はフォニックスやリズムをつけて話すことを意識した指導をしていくことで、文字の音と形の紐づけを確実なものにする。 	ものなど)を活用する。
体力向上	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの期間を利用して、体力向上に努める。 ・縄跳びを活用しながら、体を動かすことの楽しさを実感させる。 ・体力テストについて、どの種目も都平均以上を目指す。また、投力を重点的に指導し、都平均以上約80%達成を目指す。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高跳びや跳び箱運動など事故やケガの多い単元が続いていく。教員側の研修を通じて、安全に学ぶことについて改めて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材を活用し、模範動画を確認しながら取り組み方について確認する。 ・縄跳びカードを活用して、目標を設定しながら意欲的に取り組むことができるようにする。

個別最適な学びと協働的な学びの充実

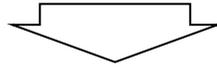
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した授業作りを、学習用タブレットを活用しながら実践する。個別のめあてや課題解決に向けての選択肢を用意し、場の設定を工夫し、効果的な交流を行う。また、児童の学習定着状況を把握し、習熟度に合わせた課題を出すなど、個別最適な学びを展開する。
----	---

探究的な学びの充実

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な活動を展開できる単元を構成し、主体的な児童を育成するため、基礎力・思考力・実践力を身に付けさせる。具体的には、生活科、総合的な学習の時間を軸に、各教科領域と横断的なカリキュラムを作成し、充実した授業作りを目指す。特に今年度は、90周年行事とも絡めて、地域や学校に愛着がもてるテーマで、生活科や総合的な学習の時間を中心に各学年児童の興味、関心を基に、授業を開発していく。
----	---

読解力の育成

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、具体的にどの文章から読み取れるのか、根拠を基に自分の考えを書いたり、発言したりするようにする。読書の時間を確保し、様々な分野の文章に触れたり、徐々に長い文章にも慣れたりできるようにする。
----	--



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
国語		
算数		
社会		
理科		
英語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実

成果と課題	
-------	--

探究的な学びの充実

成果と課題	
-------	--

読解力の育成

成果と課題	
-------	--